

授 業 要 項

2019年度

授業科目	運動学					担当教員	嵯峨守人、川瀬翔太
学年および学科	2年PT	単位	1	総時間数	30時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	人が運動を行う場合の基本となる関節運動を中心にその構造と機能を理解する。 解剖学・生理学・物理学・基礎運動学が基礎となっているため、それらに関連づけて理解するとよい。 各関節を解剖学的特徴、関節の安定性と機能解剖、運動の3つのカテゴリーに分け整理するとよい。						
	授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)		
1	総論 (川瀬)				「運動学とは」および捉え方、機能解剖の整理の仕方、学習の進め方などを説明する。		
2	肩関節 (嵯峨)				肩複合体の解剖学的特徴と機能が説明できる。肩複合体の筋の作用と複合運動を説明できる。肩関節の靭帯の機能について説明できる。		
3	肘関節 (嵯峨)				肘関節の特徴と機能が説明できる。肘関節の構成体について説明できる。 肘関節および前腕の関節運動について説明できる。		
4	手関節 (嵯峨)				“手”の構成と機能について説明できる。手関節・手指の特徴を理解し、その構造と関節運動および筋の作用について説明できる。		
5	股関節 (川瀬)				股関節の特徴と機能が説明できる。股関節の構成体について説明できる。股関節に関する各種計測について説明できる。荷重時に於ける股関節のメカニクスについて説明できる。股関節の異常が原因となる歩行について説明できる。		
6	膝関節 (川瀬)				膝関節の特徴と機能が説明できる。膝関節の靭帯、関節半月の機能が説明できる。膝関節の運動と靭帯の作用を関連付けて説明できる。膝関節の関節包内運動が説明できる。膝関節の筋の作用を説明できる。		
7	足関節 (川瀬)				下腿及び足根および足部の関節の構造を説明できる。足関節および足部の運動軸に対する骨運動と筋の作用が説明できる。足のアーチについて説明できる。		
8	体幹 (川瀬)				脊柱、椎間関節、椎間板の特徴と機能が説明できる。脊柱・体幹の筋の機能について説明できる。呼吸運動について説明できる。		
9	歩行 (嵯峨)				姿勢と重心、歩行の指標、重心の移動、各関節の変化、筋の活動、床反力、異常歩行を説明することができる。		
履修上の 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・key word(別紙)について事前に調べ、予習ノートを作成する。 特に骨・関節の名称および滑膜性関節の基本構造と分類、筋の起始停止を復習しておくこと。 ・スケルトンなどを利用して3次元でイメージしよう。 						
授業形態	事前・事後学習、講義						
教科書	Donald A Neumann:筋骨格系のキネシオロジー, 医歯薬出版株式会社						
参考書	松野丈夫・中村利彦編:標準整形外科学, 医学書院 中村隆一:基礎運動学, 医歯薬出版株式会社 図解関節・運動器の機能解剖, 運動器の機能解剖, カパンディ関節の生理学, 日本人体解剖学, 分担解剖学 Essential解剖学						
評価方法	筆記試験						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	運動学				担当教員	水野 準也	
学年および学科	2年OT	単位	1	総時間数	30時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	運動障害を治療対象とする作業療法士にとって運動学はその理論的基礎をなす重要な科目である。正常運動とその仕組みに関して基礎知識を身につける。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	オリエンテーション			「運動学とは」および捉え方、機能解剖の整理の仕方、学習の進め方などを説明する。			
2	肩関節について			肩関節を構成する骨、関節について列挙できる。 肩関節の構造と運動機能を説明できる。 肩関節における解剖学的特徴、関節構造、運動について説明することができる。			
3	肘関節について			肘関節を構成する骨、関節について列挙できる。 関節分類から運動軸について説明できる。 主動作筋と補助筋、関節の制限因子について述べるができる。			
4	手関節について			手関節を構成する骨、関節について列挙できる。 手関節・手指の構造と運動機能を説明できる。 手関節における解剖学的特徴、関節構造、運動について説明することができる。			
5	股関節について			股関節を構成する骨、関節について列挙できる。 解剖学的特徴から股関節の機能を説明できる。 主動作筋と補助筋、関節の制限因子について述べるができる。			
6	膝関節について			手関節を構成する骨、関節について列挙できる。 膝関節の構造と運動機能を説明できる。 膝関節における解剖学的特徴、関節構造、運動について説明することができる。			
7	足関節について			足関節を構成する骨、関節について列挙できる。 解剖学特徴から関節の分類、運動軸について説明できる。 運動時における腓骨の動きについて説明できる。 主動作筋と補助筋、関節の制限因子について述べるができる。			
8	脊柱について			脊柱を構成する骨、関節について列挙できる。 脊柱の構造と運動機能を説明できる。 脊柱の関節における解剖学的特徴、関節構造、運動について説明することができる。			
9	歩行について			歩行周期について説明できる。 歩行における関節・筋の活動、力学などを説明することができる。 床反力について説明することができる。			
履修上の 留意点	講義前に配布されるプリントを用いて事前学習および調査を行い、授業に臨むこと。詳しくはオリエンテーションで説明する。学習理解には基礎的な知識(筋の起始停止、作用など)が必須であり、ボリュームも多く、授業速度も速いため、必ず予習、復習をすること。						
授業形態	講義						
教科書	Donald A Neumann: 筋骨格系のキネシオロジー 第2版, 医歯薬出版株式会社 中村隆一: 基礎運動学 第6版, 医歯薬出版株式会社						
参考書	カパンディー関節の生理学、グレイ解剖学、関節・運動器の機能解剖 15レクチャーシリーズ運動学、標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学						
評価方法	期末試験(筆記試験);100点						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	臨床心理学					担当講師	非常勤講師
学年および学科	2年PT・OT	単位	1	総時間数	30時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	心の働きがどのように現れるのか、心の問題をどのように改善していくのかについて基礎を学習する。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	はじめに			臨床心理学を学ぶ意味を知る			
	パーソナリティーの理解			個人差に注目する			
2	うつ病と抑うつ状態			ストレス社会を生きること			
3	不安症			怖れる気持ちとつきあう			
	統合失調症			普遍的な心の病を知る			
4	心的外傷ストレス症候群			癒しがたい心の傷を知る			
	発達障害			自閉症の理解と支援			
5	臨床心理学の理論と方法の歴史			心に対するさまざまな考え方を知る			
	精神分析			自分を深く見つめる			
6	認知行動療法			エビデンスにもとづくアプローチを知る			
	人間性心理学			自分らしく生きること			
7	ナラティブ・アプローチ			心とセラピーを問い直す			
	神経科学と生理心理学			心の生物学的基礎を知る			
8	心理アセスメント			専門家による心の見立てを知る			
履修上の 留意点	心理学・精神医学で学んだ内容を復習しておくこと。 実際の心理検査を体験するので、充分理解できるように努めること。						
授業形態	講義、体験学習						
教科書	藤田哲也監修 串崎真志編著 絶対役立つ臨床心理学						
参考書	臨床心理学 全5巻 創元社 精神分析セミナー 全5巻 岩崎学術出版						
評価方法	期末試験						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	内科学 I				担当講師	院内医師	
学年および学科	2年PT・OT	単位	1	総時間数	30時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	基本的な内科学的知識について学習する。 内科学 I では特に心疾患・呼吸器疾患について理解を深める。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	呼吸器総論			呼吸器の機能と構造を理解し、呼吸器疾患の症状と所見、呼吸機能を測定する検査法などについて学習する。			
2	呼吸器疾患 腫瘍			腫瘍性呼吸器疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療の基本的知識について理解を深める。			
3	呼吸器疾患 アレルギー			アレルギー性呼吸器疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療の基本的知識について理解を深める。			
4	呼吸器疾患 慢性呼吸器疾患			慢性呼吸器疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療の基本的知識について理解を深める。			
5	呼吸器疾患 感染症			感染性呼吸器疾患の病態、診断、治療の基本的知識について理解を深める。			
6	循環器総論 循環器疾患(虚血性心疾患・心不全)			循環器の解剖と生理について理解し、主な循環器疾患の概念、病理、症状、臨床所見、検査、治療について学習する。			
7	咀嚼・嚥下機能、オーラル・フレイル			口腔・頸部の解剖および、咀嚼・嚥下機能、フレイル、サルコペニアの病態について理解を深める。			
履修上の 留意点	講義日程は時間割表にて確認すること						
授業形態	講義						
教科書	寺野 彰 総編集:シンプル内科学 改訂第2版. 南江堂						
参考書							
評価方法	期末試験						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	整形外科学 I					担当講師	非常勤講師
学年および学科	2年PT・OT	単位	1	総時間数	30時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	整形外科学の疾患の病態と原因を学ぶ。肉体の構造、運動等の理解を深める。整形外科治療学における疾患の概念、病態、診断、治療その対応を学ぶ。解剖学に基づいた運動器の基本知識をまなび、疾病・外傷の理解を深め、知識に基づいた運動器リハビリが行えるように理解を深める。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	整形外科の基礎科学 骨の構造・生理・化学、骨の発生・成長・維持、骨の病態・病理、関節の構造・生理・生化学、関節の病態・病理			骨・軟骨の基礎に関する一般的な知識を習得するとともに、それらの整形外科領域の診療への係わりのおおよそを理解する。			
2	整形外科の基礎科学 骨・軟骨の修復と再生、筋・神経の構造・生理・化学、痛みの基礎科学と臨床			骨・軟骨の修復再生と筋・神経や痛みの基礎に関する一般的な知識を習得するとともに、それらの整形外科領域の診療への係わりのおおよそを理解する。			
3	整形外科診断総論 診療の基本、主訴・主症状から想定すべき疾患、整形外科的現症の取り方、検査			整形外科診断に関する一般的な知識を習得するとともに、それらの整形外科領域の診療への係わりのおおよそを理解する。			
4	整形外科治療総論 保存治療、手術療法			整形外科治療に関する一般的な知識を習得するとともに、それらの整形外科領域の診療への係わりのおおよそを理解する。			
5	整形外科疾患総論 軟部組織・骨・関節の感染症、関節リウマチと類縁疾患			整形外科疾患に関する一般的な知識を習得するとともに、それらの整形外科領域の診療への係わりのおおよそを理解する。			
6	整形外科疾患総論 慢性疾患(退行性、代謝性)、四肢循環障害と粗血壊死性疾患			整形外科疾患に関する一般的な知識を習得するとともに、それらの整形外科領域の診療への係わりのおおよそを理解する。			
7	整形外科疾患総論 先天性骨系統疾患、先天異常症候群、代謝性骨疾患、骨腫瘍			整形外科疾患に関する一般的な知識を習得するとともに、それらの整形外科領域の診療への係わりのおおよそを理解する。			
8	整形外科疾患総論 軟部腫瘍、神経疾患・筋疾患、ロコモティブシンドローム			整形外科疾患に関する一般的な知識を習得するとともに、それらの整形外科領域の診療への係わりのおおよそを理解する。			
履修上の留意点	各担当講師授業要項を確認すること講義日程は時間割表にて確認すること。						
授業形態	講義						
教科書	松野丈夫・中村利孝 総編集:標準整形外科学. 医学書院						
参考書							
評価方法	筆記テスト 試験は60点を合格点とする。 60点に満たなければ再試験。						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	神経内科学 I			担当講師	院内医師		
学年および学科	2年PT・OT	単位	1	総時間数	30時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	神経症候学ならびに神経内科及び脳神経外科領域でみられる疾患・障害の基礎知識について学習する。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	運動麻痺(P33～) 運動失調(P36～) ミオパチー(P234～)			各神経症候・疾患について、その概念を理解し、病態生理・発現機序、主な原因や疾患、分類、評価法などについて学ぶ。			
2	精神症状(P83～) 高次脳機能障害(P88～)			精神症状と高次脳機能障害について、その概念を理解し、症状・分類、検査などについて学習する。			
3	てんかん(P188～)			てんかんの臨床型と症候を理解する。			
4	構音障害・嚥下障害・球麻痺症状(P28～) 睡眠障害(P70～) 障害評価(P124～)			各神経症候について、その概念、種類および原因、評価などについて学び、症候の理解を深める。			
5	錐体外路症候(P43～)			錐体外路症候について、概念、病態生理を理解し、その症候について学ぶ。			
6	感覚障害・疼痛(P63～) 運動ニューロン疾患(P209～)			各神経症候・疾患について、その概念を理解し、病態生理、分類・種類などについて学ぶ。			
7	自律神経症候(P76～) 認知症(P142～)			自律神経症候について、その概念や主な症候を理解する。 認知症について、主要な疾患について学び、その基礎知識を理解する。			
8	筋萎縮(P52～)、歩行障害(P58～)			筋萎縮と歩行障害について、その概念や症候、種類や検査所見などを理解する。			
9	意識障害・めまい・失神(P16～) 脳神経障害(P22～) 姿勢反射障害と姿勢異常(P49～)			各神経症候・疾患について、その概念を理解し、病態生理・発現機序、主な原因や疾患、分類、評価法などについて学ぶ。			
履修上の 留意点	講義日程は時間割表にて確認すること						
授業形態	講義						
教科書	河村満:メディカルスタッフのための神経内科学, 医歯薬出版						
参考書							
評価方法	期末試験						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	精神医学					担当講師	非常勤講師
学年および学科	2年PT	単位	1	総時間数	30時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	国家試験合格に必要な精神医学の基本的知識を身につけるとともに、精神疾患の病態について理解を深める。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	器質性精神障害 物質関連性精神障害 てんかん			各疾患の概念や診断、病型分類、症状と経過・予後、疫病因・病態仮説、治療について理解する。			
2	精神医学総論			精神医学に関する歴史、関連法規、精神科の診断や治療について、理解する。			
3	統合失調症			疾患の概念や診断、病型分類、症状と経過・予後、疫病因・病態仮説、治療について理解する。			
4	精神症候学			症候のとらえ方や精神症状の定義について理解する。			
5	精神症性疾患			疾患の概念や診断、病型分類、症状と経過・予後、疫病因・病態仮説、治療について理解する。			
6	児童・思春期の精神疾患 老年期の精神疾患 精神発達遅滞			疾患の概念や診断、病型分類、症状と経過・予後、疫病因・病態仮説、治療について理解する。			
7	気分障害			疾患の概念や診断、病型分類、症状と経過・予後、疫病因・病態仮説、治療について理解する。			
8	人格障害 摂食障害 睡眠障害			疾患の概念や診断、病型分類、症状と経過・予後、疫病因・病態仮説、治療について理解する。			
履修上の 留意点	特になし。						
授業形態	形態は講義形式と関連する映画DVDの放映。学習資源としては、教科書、パワーポイント、DVDを使用する。						
教科書	標準理学療法学・作業療法学—専門基礎分野 精神医学 第4版 医学書院						
参考書	精神科(国試マニュアル100%シリーズ)第6版 医学教育出版社						
評価方法	全授業終了後の論述試験(期末試験)にて評価する。						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	公衆衛生学				担当講師	非常勤講師	
学年および学科	2年PT・OT	単位	1	総時間数	30	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	公衆衛生は、組織的な地域社会の努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延伸し、身体的および精神的健康と能率の増進を図る科学である。公衆衛生学は、この知識や体系を学ぶ学問である。ゆえに、非常に広範囲に及ぶ知識を体得する必要があることを各自、自覚し、授業に臨んでほしい。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	オリエンテーション 「健康」と「公衆衛生」の定義			健康とは何か、公衆衛生とは何かについての知識を身に付ける。 公衆衛生活動の内容、保健医療、社会福祉領域に従事する者の生命倫理を理解する。			
2	保健統計 疫学			健康指標、人口統計を理解する。 疫学とは何かについて学ぶ。			
3	疾病予防 健康管理			予防医学的な一次予防、二次予防、三次予防の内容を学ぶ。 健康管理、健康増進について、特に身近な喫煙と健康について学ぶ。			
4	感染症の予防と対策 生活習慣病と「がん」予防			感染症の成り立ち、予防および最近の感染症について学ぶ。 生活習慣病および「がん」の現況とその対策について学ぶ。			
5	人間と環境(生態系) 地球環境問題			生態系の成り立ち、環境汚染と地球環境問題について学ぶ。 環境の把握とその評価について学ぶ。			
6	物理的、化学的環境要因 空気、水等の衛生			環境の物理的、化学的要因と、その健康影響について学ぶ。 空気、水等の衛生と、その健康影響について学ぶ。			
7	地域保健行政、母子保健、学校保健 産業保健			地域保健行政の内容、母子保健のあらまし、学校保健について学ぶ。産業保健、特に職業病について学ぶ。			
8	高齢者の保健、医療、介護制度 国際保健医療			高齢者の保健、医療、介護制度、国際保健の内容について学ぶ。 公衆衛生学のとまとめを行う。			
履修上の 留意点	教科書および資料の予習、復習に努めると共に、日常のマスコミ等のニュース、報道に留意し関心を持つこと。						
授業形態	講義(教科書、印刷物)						
教科書	「シンプル 衛生公衆衛生学」2019 南江堂						
参考書	新版「生活と環境」第3版 訂正;岡部昭二、日比野雅俊、三谷一憲、土屋博信、酒井 潔 共著 三共出版(2014)						
評価方法	学期末試験(記述式)90%と受講態度(出欠状況等)10%の総合評価						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	基礎理学療法学 実習				担当教員	中村 敦子	
学年および学科	2年PT	単位	1	総時間数	45時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	基礎理学療法学で学んだ運動療法の基礎的事項の理解を実習を通して整理し、再学習する。 運動療法の基本的な方法・手技に触れる。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	運動療法			1年次に学んだ運動療法の概念について振り返り、その目的・種類を説明できる。また、臨床実習(I)で実際に見学した運動療法を挙げることができる。			
2	バイタルサイン			バイタルサインについて説明でき、その主要な測定を実施する。理学療法を実施するにあたり、リスク管理に必要な不可欠な情報として理解できる。			
3	関節可動域運動			関節可動域運動の目的・種類・方法・適応を理解し、注意点に配慮しながら実施できる。また、そのために必要な知識を再確認する。			
4	筋力増強運動			筋力増強運動の目的・種類・方法・適応を理解し、注意点に配慮しながら実施できる。また、そのために必要な知識を再確認する。			
5	姿勢と協調性、運動学習			姿勢と重心、運動制御、協調性について実習を通して理解を深める。運動療法を実施していく中で運動学習の理論に基づいた実際を説明できる。			
6	運動と呼吸・循環・代謝			運動と呼吸・循環・代謝の関係を理解し、運動における身体の変化について説明できる。また、全身持久力の評価とエネルギー代謝について実習を通して理解を深める。			
7	課題発表(治療体操と基礎疾患への運動効果)			発表および実習を通して、疾患に基づいた治療体操を学び、体験する。また、基礎疾患(高血圧症・高脂血症・糖尿病)の病態に触れ、その運動療法について学ぶ。			
履修上の 留意点	この授業は運動療法の基礎的な手技を学習する場である。そのため、実際に即した状況を想定して行えるように、被験者を学生と思わず患者と思って実施する。また、その際のオリエンテーションの仕方やコミュニケーションのとり方にも注意しながら行う必要がある。実技実習時では動きやすい服装で臨み、講義においては、参考書を持参することが望ましい。また、1年次に履修した基礎理学療法学を復習しておくこと。課題発表は時間を厳守し、他者にわかりやすく伝えられるように準備をする。						
授業形態	講義、実技実習、課題発表						
教科書	特になし						
参考書	標準理学療法学 運動療法学 総論 第4版 医学書院 1年次基礎理学療法学授業資料						
評価方法	期末試験(客観試験・実地試験) 課題発表						
担当教員の 実務経験	病院勤務による実務経験あり						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	理学療法評価学 I				担当教員	近藤 登、嵯峨 守人	
学年および学科	2年PT	単位	2	総時間数	45時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	患者の全体像の把握・問題点の抽出および治療プログラム立案の基礎となる理学療法評価の意義・方法を学び、実施できるようにする。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	評価とは?(講義)			評価の意義・目的について説明できる。			
2	関節可動域テスト(講義・実技)			上肢・下肢・頸部・体幹の関節可動域テストの意義・方法を説明できる。 オリエンテーションを含めて実技を習得する。			
3	徒手筋力テスト(講義・実技)			上肢・下肢・頸部・体幹の徒手筋力テストの意義・方法を説明できる。 オリエンテーションを含めて実技を習得する。			
4	形態測定・整形外科検査(講義・実技)			形態測定・整形外科検査の意義・方法を説明できる。 オリエンテーションを含めて実技を習得する。			
5	感覚・反射検査(講義・実技)			感覚・反射検査の意義・方法を説明できる。 オリエンテーションを含めて実技を習得する。			
6	筋トーン・協調性・ADL検査(講義・実技)			筋トーン・協調性・ADL検査の意義・方法を説明できる。 オリエンテーションを含めて実技を習得する。			
7	脳神経・意識障害・認知症検査(講義・実技)			脳神経・意識障害・認知症検査の意義・方法を説明できる。 オリエンテーションを含めて実技を習得する。			
8	高次脳機能検査(講義・実技)			高次脳機能検査の意義・方法を説明できる。 オリエンテーションを含めて実技を習得する。			
9	まとめ			知識の整理を行う。 オリエンテーションを含めて実技を習得する。			
履修上の 留意点	実技実習を行う際には動きやすい服装で臨むこと。爪の手入れも怠らないこと。アクセサリー厳禁。 また、被験者を学生と思わず患者様と行って行うようにする。そのため、オリエンテーションやコミュニケーションの仕方にも注意をする。 理学療法専門科目を含め、学習した臨床医学的知識が総合的に統合されること。						
授業形態	講義、実技実習、グループ討議						
教科書	1) ベッドサイドの神経の診かた(南山堂) 2) 新・徒手筋力検査法(協同医書出版社) 3) 理学療法評価学(金原出版株式会社)						
参考書	1) 臨床での測定精度を高める! ROM測定法(メジカルビュー社) 2) ビジュアルレクチャー 理学療法基礎評価学(医歯薬出版)						
評価方法	口頭試験、実地試験、筆記試験						
担当教員の 実務経験	病院勤務による実務経験あり						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	物理療法学				担当教員	川瀬 翔太	
学年および学科	2年PT	単位	2	総時間数	45時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	物理療法によって得られる生理学的効果について説明できる 物理療法の実施について必要な準備・治療前後の指導・禁忌も含めて説明できる						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	物理療法概論・必要な基礎知識			理学療法の中の物理療法の位置づけを説明できる 物理療法に必要な基礎的な物理学の知識を復習する			
2	温熱療法概論・表在性温熱療法			温熱療法の概略を説明できる 表在性温熱療法の実施・禁忌について説明できる			
3	深達性温熱療法			深達性温熱療法の実施・禁忌について説明できる			
4	寒冷療法			寒冷療法の実施・禁忌について説明できる			
5	水治療法			水の物理的特性について説明できる 水治療法の実施・禁忌について説明できる			
6	電気療法			電気の物理的特性について説明できる 電気療法の実施・禁忌について説明できる			
7	牽引療法, 光線療法			牽引療法の実施・禁忌について説明できる 光線療法の実施・禁忌について説明できる			
8	マッサージ療法			物理療法の中のマッサージ療法の位置づけを説明できる マッサージ療法の基礎を学び体験実習(頸部・上肢)を行える マッサージ療法の基礎を学び体験実習を行える(下肢)			
9	物理療法のリスク管理、問題演習			物理療法のリスク管理について説明できる 物理療法学で学んだ知識の整理を行い理解を深める			
履修上の 留意点	この講義で学んだことを物理療法学実習に繋げる意識を常に持つこと						
授業形態	配布資料および教科書を元にした講義形式						
教科書	物理療法学(金原出版)						
参考書	標準理学療法学 物理療法学(医学書院) 物理療法のすべて (医歯薬出版)						
評価方法	筆記試験						
担当教員の 実務経験	病院勤務による実務経験あり						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	物理療法学 実習				担当教員	伊藤 剛	
学年および学科	2年PT	単位	1	総時間数	45時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	物理療法の機器を実際に使用し、生体反応を生理学的な観点から理解する。 使用する機器の取り扱い方法、適応や禁忌について確認する。 患者さんへの実施上の説明や使用する姿勢など、相手への配慮について学ぶ。 自ら実習計画をたて実習を行い考察することを通し、研究過程を体験する。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	オリエンテーション			実習概要の説明。使用機器の取り扱い説明。実習計画書の作成。			
2	実習①			ホットマグナー			
3	実習②			アイスマッサージ			
4	実習③			極超短波			
5	実習④			低周波			
6	実習⑤			超音波、ホットパック			
7	実習⑥			渦流浴、牽引			
8	オリエンテーション			発表のオリエンテーション 水中のトレッドミルの概要説明、実習計画書の作成			
9	実習⑦			水中トレッドミル			
10	発表準備			グループ毎に割り当てられたテーマについて発表の準備を行う			
11	発表			グループ毎に割り当てられたテーマについて発表する			
履修上の 留意点	実習⑤・⑥・⑦は病院で行うため、周囲への配慮を欠かさないこと。						
授業形態	実習、発表						
教科書	物理療法学 改訂第2版(金原出版)						
参考書	標準理学療法学 物理療法学第4版(医学書院) 物理療法のすべて (医歯薬出版)						
評価方法	レポート、発表						
担当教員の 実務経験	病院勤務による実務経験あり						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	日常生活活動実習				担当教員	中村 敦子	
学年および学科	2年PT	単位	1	総時間数	45時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	日常生活活動の評価ができる 代表疾患の日常生活活動(動作)の特徴を知り介助方法, 指導方法を学ぶ						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	1年次の復習 基本動作(ポジショニング、杖動作)			ADLの概念と範囲, 位置付け, 評価の進め方, 実用性を説明できる。 (復習) 杖の処方と動作を重症度別に指導できる。 ADLの基本動作の一つである臥位, 座位について意義, 解剖運動学的に望ましい姿勢を説明し, ポジショニング, 指導が行える			
2	標準的ADL動作の評価と指導① (実技) 介助の基本 (実技)			基本動作について多様な見方から評価を行う。介助の基本を説明できる。			
3	標準的ADL動作の評価と指導② (実技)			身の回り動について構成要素に分け, 要因別に分析する。			
4	ADL評価の実際			症例を通して, 評価を学ぶ。(BI, FIM)			
5	疾患別ADL① 人工股関節・腰痛症 (実技)			骨・関節疾患患者における疾患の特徴, ADL指導の目的, 評価の要点, 指導内容注意点を説明し指導ができる。(人工関節の利点・欠点, 脱臼予防と基本動作, 身の回り動作の方法・注意点など, 腰痛発生のメカニズムと日常生活の指導)			
6	疾患別ADL② 関節リウマチ (実技)			関節リウマチ患者における疾患の特徴, ADL指導の目的, 評価の要点, 指導内容注意点を説明し指導ができる。(関節リウマチの特徴, 日常生活の基本, 関節保護, エネルギー節約, 環境設定, 介助の仕方)			
7	疾患別ADL③ 脊髄損傷 (実技)			脊髄損傷患者における疾患の特徴, ADL指導の目的, 評価の要点, 指導内容注意点を説明し指導ができる。(脊髄損傷レベル別ADL能力と機能的帰結, ADL指導の要点)			
8	疾患別ADL④ パーキンソン病 (実技)			パーキンソン病患者における疾患の特徴, ADL指導の目的, 評価の要点, 指導内容注意点を説明し指導ができる。(パーキンソン病の主症状, 進行度とADL能力, 基本動作指導, ADL指導と環境設定)			
9	疾患別ADL⑤ 片麻痺 (実技)			片麻痺患者における疾患の特徴, ADL指導の目的, 評価の要, 指導内容注意点を説明できる。(片麻痺の原因と多様な症状, 考え方と留意点, 基本動作の実際と介助, 身の回り動作の実際と指導)			
10	疾患別ADL⑥ 呼吸器・循環器疾患、老年期障害 (実技)			呼吸器・循環器疾患患者における疾患の特徴, ADL指導の目的, 評価の要点, 指導内容注意点を説明し指導ができる。(内部疾患のADL指導の考え方, 指導の原則と要点, 活動量)老年期障害の特徴と評価, 予防, 認知症に対する接し方			
11	疾患別動作の比較と介助 (実技) まとめ			特に基本動作に注目し, 疾患に合わせた動作方法や介助方法を再確認する。ADLの評価と治療についてのまとめ			
履修上の留意点	疾患や患者像をイメージして状況に合わせたADL指導ができるよう目指してください。実技実習がある場合は, 動きやすい服装で望んでください。疾患別①～⑥におけるADL指導の実際については, グループで話し合い, 発表も行ってもらいます。実技指導を含めた内容ですので事前準備(練習含む)を十分行って発表に臨んでください。						
授業形態	講義, 実技実習, グループ発表						
教科書	千住秀明 監修:日常生活活動(ADL)第2版 神陵文庫, 1年次 日常生活活動 授業資料						
参考書	1年次 生活環境論 授業資料 鶴見隆正 編集:標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第3版, 医学書院 細田多穂 監修:シンプル理学療法シリーズ 日常生活活動学テキスト, 南江堂 伊藤利之ほか編:新版 日常生活活動(ADL)ー評価と支援の実際ー, 医歯薬出版株式会社 土屋弘吉ほか編:日常生活活動(動作), 医歯薬出版株式会社 千野直一編:リハビリテーションMOOK ADL・IADL・QOL, 金原出版 伊藤利之ほか編:ADLとその周辺, 医学書院						
評価方法	筆記試験 実技試験 発表						
担当教員の 実務経験	病院勤務による実務経験あり						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	精神医学 I					担当講師	非常勤講師
学年および学科	2年OT	単位	1	総時間数	30時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	国家試験合格に必要な精神医学の基本的知識を身につけるとともに、精神疾患の病態について理解を深める。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	器質性精神障害 物質関連性精神障害 てんかん			各疾患の概念や診断、病型分類、症状と経過・予後、疫病因・病態仮説、治療について理解する。			
2	精神医学総論			精神医学に関する歴史、関連法規、精神科の診断や治療について、理解する。			
3	統合失調症			疾患の概念や診断、病型分類、症状と経過・予後、疫病因・病態仮説、治療について理解する。			
4	精神症候学			症候のとらえ方や精神症状の定義について理解する。			
5	精神症性疾患			疾患の概念や診断、病型分類、症状と経過・予後、疫病因・病態仮説、治療について理解する。			
6	児童・思春期の精神疾患 老年期の精神疾患 精神発達遅滞			疾患の概念や診断、病型分類、症状と経過・予後、疫病因・病態仮説、治療について理解する。			
7	気分障害			疾患の概念や診断、病型分類、症状と経過・予後、疫病因・病態仮説、治療について理解する。			
8	人格障害 摂食障害 睡眠障害			疾患の概念や診断、病型分類、症状と経過・予後、疫病因・病態仮説、治療について理解する。			
履修上の 留意点	特になし。						
授業形態	形態は講義形式と関連する映画DVDの放映。学習資源としては、教科書、パワーポイント、DVDを使用する。						
教科書	標準理学療法学・作業療法学—専門基礎分野 精神医学 第4版 医学書院						
参考書	精神科(国試マニュアル100%シリーズ)第6版 医学教育出版社						
評価方法	全授業終了後の論述試験(期末試験)にて評価する。						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	精神医学Ⅱ				担当講師	非常勤講師	
学年および学科	2年OT	単位	1	総時間数	30時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	精神医学Ⅰで得た知識に加え、臨床実践的な知識を得るとともに、それらの知識を実際の臨床場面を想定して応用することができる。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	司法精神医学、医療観察法 ①刑事責任能力 ②心神喪失者等医療観察法			犯罪を成立させる要件を理解し、その上で医療観察法制度、それに基づく実際の法律の内容としたOTの役割を理解する。			
2	精神療法			精神科のかかわりの特殊性を理解でき、具体的な場面(例えば自分が妄想対象になった場合)で何を考え、どう対処すべきかについて理解・実行できる。			
3	精神科薬物療法			向精神薬の分類、薬理、効果、副作用について理解でき、具体的な処方内容をみて、医師の考えている治療効果や起こりうる副作用について考えることができる。			
4	精神疾患患者の高齢化とその対応 就労支援			精神疾患患者の高齢化および就労支援について理解でき、どう対応すべきかについて考えて実行できる。			
5	症例検討			模擬症例から情報を抽出し、足りない情報が何か分かり、情報を整理し、焦点化を行い、医師の治療方針を踏まえた上で、作業療法士としてのかかわり方について考えることができる。			
6	児童・思春期精神医学の基本 発達とは			子どものこころの問題の基本と成人との違いを理解する。発達障害の基本について学ぶ。			
7	子ども虐待			子ども虐待の現状とその対応について学ぶ。			
8	成人の発達障害や重複診断に対するアプ ローチと社会参加			成人の発達障害について知り、発達障害をベースとした他の疾患への対応及び社会への参加について学ぶ。			
履修上の 留意点	特になし。						
授業形態	形態は講義形式、グループ討議。 学習資源としては、教科書、パワーポイントを使用する。						
教科書	標準理学療法学・作業療法学—専門基礎分野 精神医学 第4版 医学書院						
参考書							
評価方法	期末試験(筆記試験);100点						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	基礎作業学実習Ⅱ				担当講師 担当教員	非常勤講師 興 登貴子、梅田 雄嗣	
学年および学科	2年OT	単位	1	総時間数	45時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	作業の体験を通じて、作業に必要な知識・技術を身につける。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	革細工 オリエンテーション、スタンピング法(梅田)			詳細は別紙参照オリエンテーションを行い、革細工の特徴や道具の名称、使用方法を理解できる。またそれをもとにスタンピング法でしおりを作成できる。			
2	革細工 カービング法 (非常勤講師)			<ul style="list-style-type: none"> ・図案を牛革にトレース、スーベルカッターで切り込みを入れ、刻印工具で立体感を出す。 ・サンプル・資料を参考に染料の種類を選び、染色方法を学ぶ。 ・牛革・裏革を接着する。 ・穴あけ(かがり用)の注意点を説明する。 ・レース(ひも状に細く裁った革)でかがる。 ・教科書・プリントを参考に、カービングによく使われるステッチを習得する。 			
3	マクラメ (興)			<ul style="list-style-type: none"> ・必要な道具、材料を列挙できる。 ・作業工程を理解し、実際に作品を完成できる。 ・作品を完成させるまでの工程を第三者にわかりやすく説明できる。 			
4	編み物 (興)			<ul style="list-style-type: none"> ・必要な道具、材料を列挙できる。 ・作業工程を理解し、実際に作品を完成できる。 ・作品を完成させるまでの工程を第三者にわかりやすく説明できる。 			
5	七宝焼き (梅田)			<ul style="list-style-type: none"> ・必要な道具、材料がわかる。 ・基本的な作成方法を理解し、作成し、作品を完成させることができる。 ・作品を完成させるまでの工程を第三者にわかりやすく説明できる。 			
6	作業分析 (興)			基礎作業学実習Ⅱで学習する作業活動を通して、作業の治療適応について学ぶ。			
履修上の 留意点	刃物を扱う上での注意。染料を使うので、対応できる服装で臨むこと。 提出するレポートが自身の作品の内容になるよう理解すること。						
授業形態	実技実習、グループワーク、講義						
教科書	革細工:革の技法 楽しむための基本集 クラフト学園研究室 著 日本ヴォーグ社						
参考書	革細工:手縫いとかがり 彦坂和子 著 学研 革手芸 彦坂和子 著 日本ヴォーグ社 ちぢみ革ときらら染 川合京子 著 主婦の友社						
評価方法	レポート 非常勤講師(30点)、梅田(20点)、興(50点)						
担当教員の 実務経験	病院で作業療法業務に従事						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	作業療法評価学Ⅱ				担当教員	水野 準也、梅田 雄嗣	
学年および学科	2年OT	単位	1	総時間数	30時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	作業療法の全領域における基本的な評価の知識・技術について演習を通して学ぶ。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	バイタルサインについて (梅田)			バイタルサインの定義を説明できる。 バイタルサインの意味を説明できる。 バイタルサインの測定方法を説明できる。 バイタルサインの測定を実施できる。			
2	臨床検査値について (水野)			臨床検査には何があるか説明できる。 臨床検査値を作業療法にどのように役立てるか説明できる。			
3	意識障害の評価法について (梅田)			意識障害の種類と状態を説明できる。 意識障害の評価を説明できる。			
4	画像所見について (水野)			CTやMRIを用いた脳画像の診かたを説明できる。 X線写真の診かたを説明できる。			
5	脳神経検査について (梅田)			脳神経検査の意義を説明できる。 脳神経とその機能的分類を説明できる。 臨床でよく行われる検査法を実施できる。			
6	形態計測について (水野)			形態計測の目的と意義を説明できる。 形態計測の種類と計測方法を説明できる。 形態計測を実施できる。			
7	面接法について (梅田)			面接の目的や一連の流れ、情報収集項目の理解を深める。 1年生に対する面接体験にて、導入から実施までの流れを体験する。 面接を振り返り、自身の面接者としての態度や情報収集方法について知り、よりよい面接のために必要なことを考えることができる。			
履修上の 留意点	面接においては、1年次の作業療法評価学Ⅰで学んだ内容ををもとに授業が展開されることを念頭において臨むこと。						
授業形態	講義、演習、グループワーク、発表						
教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 医学書院						
参考書	バイタルサイン(医学書院)(梅田)						
評価方法	期末試験(筆記試験);水野50点、梅田30点 レポート;梅田20点						
担当教員の 実務経験	病院で作業療法に従事						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	作業療法評価学 身体障害				担当教員	塩谷絵梨	
学年および学科	2年OT	単位	1	総時間数	30時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	身体障害を対象とする作業療法を実施するにあたって対象者の状態が把握できるようになるために、基本的な評価の目的、方法を学び、それらを実施できる。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	評価とは			評価の目的について説明できる。			
2	感覚検査			感覚検査の目的、方法、種類の説明と実施ができる。			
3	反射検査			腱反射・病的反射の目的、方法、種類の説明と実施ができる。			
4	姿勢反射、平行反応、バランス検査			姿勢反射、平行反応、バランス検査の目的、方法、種類の説明と実施ができる。			
5	筋緊張検査			筋緊張検査の目的、方法、種類の説明と実施ができる。			
6	協調性運動検査			協調性検査の目的、方法、種類の説明と実施ができる。			
7	関節可動域検査 (体幹、上肢、手指、下肢)			関節可動域の説明ができる。 関節可動域検査の目的、方法の説明ができる。 関節可動域検査を実施し、検査技術が実施できる。			
8	徒手筋力検査 (体幹、上肢、手指、下肢)			徒手筋力テストについて説明ができる。 徒手筋力テストの目的、方法の説明ができる。 徒手筋力テストを実施し、検査技術が実施できる。			
9	上肢機能検査 (STEF、MFT、握力、ピンチ力)			上肢機能について説明ができる。 各上肢機能検査が実施できる。			
履修上の 留意点	実技実施時は動きやすい服装を着用すること。 講義以外時間で実技テストを行う。						
授業形態	講義、実技実習						
教科書	1. ベッドサイドの神経の診かた改訂17版(南山堂) 2. 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版(医学書院) 3. 新・徒手筋力検査法 原著第9版(エルゼビアジャパン)						
参考書	基礎運動学(医歯薬出版) 関節可動域測定(協同医書) ROM測定 第2版(三輪書店)						
評価方法	筆記試験 70点[期末試験:60点, 小テスト:10点] 実技試験 30点[中間実技試験:15点, 期末実技試験:15点]						
担当教員の 実務経験	病院で身体障害領域の作業療法に従事						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	作業治療学 中枢疾患 I				担当教員	輿 登貴子、山田 剛史	
学年および学科	2年OT	単位	1	総時間数	30時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	脳血管障害と頭部外傷の病態と生活機能障害について学び、対象者の障害像を理解する。 脳血管障害と頭部外傷に対する作業療法について学び、対象者に合わせたプログラムを理解する。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	脳血管障害について (輿)			<ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害の病態について説明できる。 ・脳血管障害の障害像と機能的予後について理解できる。 			
2	脳血管障害の評価について (輿)			<ul style="list-style-type: none"> ・対象者の生活機能障害を、ICFに基づいて説明できる。 			
3	脳血管障害の作業療法について (輿)			<ul style="list-style-type: none"> ・急性期・回復期・維持期における作業療法の目的とプログラムを説明できる。 			
4	頭部障害について (山田)			<ul style="list-style-type: none"> ・頭蓋骨から脳までの解剖学・生理学的構造を説明できる。 ・頭部障害の原因・病態、機能障害について説明できる。 ・脳血管障害との相違について理解できる。 			
5	症例検討 (輿)			片麻痺患者の症例について、身体構造・心身機能の情報から障害像をイメージできる。			
履修上の 留意点	解剖学、生理学、運動学で既に学んだ知識を基に展開するので、必ず予習(復習)をして講義に臨むこと。						
授業形態	講義、グループワーク						
教科書	標準作業療法学 身体機能作業療法学 病気がみえる vol7.脳・神経						
参考書	メディカルスタッフのための神経内科学						
評価方法	期末試験(筆記試験);輿60点、山田25点 課題;輿15点						
担当教員の 実務経験	病院で身体障害領域の作業療法に従事						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	作業治療学 整形疾患 I				担当講師 担当教員	非常勤講師 山田 剛史、塩谷 絵梨	
学年および学科	2年OT	単位	1	総時間数	30時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	身体障害の治療原理を学ぶ。 代表的な整形外科疾患に対してのアプローチの原則を習得し作業療法の対象となる整形外科疾患に対してそれぞれの疾患の特性を理解した上で、適切な治療・援助ができるようになるために必要な知識を学ぶ。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	整形疾患総論 (非常勤講師) 身体組成の基本的知識 骨折の治療 末梢神経損傷の治療 腱損傷の治療 頸部疾患の治療 まとめ			<ul style="list-style-type: none"> 骨、筋、神経などの役割や特徴を理解する 治癒過程、合併症、評価と治療のポイント 損傷分類、症状、評価と治療のポイント 修復過程、評価と治療のポイント 疾患の種類、症状、評価と治療のポイント 二次的合併症の予防と重要性、治療の原則 			
2	骨折について (塩谷)			<ul style="list-style-type: none"> 骨の構造・リモデリングについて理解し説明することができる。 骨折の分類、治癒過程、症状、診断、初期治療、合併症について理解および説明することができる。 上肢骨の主な骨折部位とその特徴について理解および説明することができる。 OT評価・治療について項目をあげ説明することができる。 			
3	末梢神経損傷について (塩谷)			<ul style="list-style-type: none"> 末梢神経の構造・機能について説明することができる。 末梢神経損傷の病態・障害について理解および説明することができる。 OT評価・治療について項目をあげ説明することができる。 			
4	関節リウマチについて (山田)			<ul style="list-style-type: none"> 関節リウマチについて説明することができる。 関節リウマチの病態・症状・診断・検査所見・治療について理解し説明することができる。 作業療法評価・治療について項目をあげ説明することができる。 			
5	大腿骨頸部骨折、胸椎・腰椎圧迫骨折について (山田)			<ul style="list-style-type: none"> 大腿骨頸部骨折、胸椎・腰椎圧迫骨折について説明することができる。 大腿骨頸部骨折、胸椎・腰椎圧迫骨折の病態・症状・検査所見・治療について理解し説明することができる。 作業療法評価・治療について項目をあげ説明することができる。 			
履修上の 留意点							
授業形態	講義						
教科書	標準作業療法学 身体機能作業療法学 医学書院						
参考書	標準整形外科学 作業療法学ゴールドマスターテキスト4 身体障害作業療法学						
評価方法	期末試験(筆記試験);非常勤講師25点、山田35点、塩谷40点						
担当者の 実務経験	病院で身体障害領域の作業療法に従事						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	作業治療学 精神障害 I				担当講師 担当教員	非常勤講師 水野 準也	
学年および学科	2年OT	単位	1	総時間数	30時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	精神科医療および作業療法の歴史・変遷を学ぶ。 精神障害分野の作業療法における治療構造を学ぶ。 精神障害分野における回復状態に応じた作業療法を学ぶ。 精神障害分野の作業療法に関連する法規を学ぶ。 精神科作業療法において作業活動が果たす治療的役割を臨床に即した素材と体験、関連する理論や概念を通して理解する。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	精神科医療および作業療法の歴史・変遷 (水野)			精神科医療および作業療法の歴史を説明できる。 精神障害分野におけるリハビリテーション・作業療法の概要を説明できる。			
2	作業療法の治療構造 (水野)			精神障害分野における作業療法の治療構造について説明できる。 ・概要 ・構成要素①対象者 ・構成要素②作業療法士 ・構成要素③作業活動 ・構成要素④集団・場 ・構成要素⑤時間			
3	回復状態に応じた作業療法 (水野)			対象者の回復状態に応じた作業療法の役割が説明できる。 ・急性期 ・亜急性期 ・回復期前期・後期 ・維持期、緩和期			
4	精神障害分野の作業療法に関連する法規 (水野)			精神保健福祉法について説明できる。 医療観察法について説明できる。			
5	精神科作業療法における作業活動 作業活動の性質1「感覚」 (非常勤講師)			OTでは身体的活動、創作的活動、より言語的な活動など様々な作業が用いられる。1回目は身体的活動を取り上げ、特にOT、Pt双方の感覚に焦点を当て両者の物理的距離や空間の構成、実際の身体感覚と治療との関係性について体験を交えて学習する。また治療者としての基本的態度であるサリヴァンの「関与しながらの観察」について紹介する。			
6	精神科作業療法における作業活動 作業活動の性質2「創作」 (非常勤講師)			実際に患者が作った作品を見ながら、その治療目的や解釈などを紹介していく。実際に簡単な創作体験を通じて臨床での表現の取り扱いについての理解を深めてもらう。また創作された物としての作品が対人関係の発達にどう機能するのかウィニコットの移行対象の概念について患者作品を踏まえて解説する。			
7	精神科作業療法における作業活動 作業活動と治療展開の実際を俯瞰する (非常勤講師)			1症例を提示し、その出会いから作業療法の実際を時系列に提示する。OTが患者をどう捉え、何を目的に、どう関わっていったのか作業療法の実際を知る機会とする。			
履修上の 留意点	水野担当の授業については、單元ごとに確認テストを予定している。詳細については、初回時にオリエンテーションを行う。						
授業形態	講義、実技体験、グループ討議						
教科書	山根 寛：精神障害と作業療法 治る・治すから生きるへ 第3版 富岡 詔子・小林 正義：作業療法学全書 改訂第3版 作業治療学2 精神障害						
参考書	適宜紹介する。						
評価方法	期末試験(筆記試験);水野65点 レポート;非常勤講師35点						
担当者の 実務経験	病院で精神障害領域の作業療法に従事						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	作業治療学 老年期障害 I				担当教員	梅田 雄嗣	
学年および学科	2年OT	単位	1	総時間数	30時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	高齢者の特性と高齢者を取り巻く心理社会的背景を理解する。 高齢者の生活上の課題について理解する。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	高齢社会、高齢者を取り巻く環境			高齢者および高齢社会の定義について説明できる。 高齢化の現状と問題点について説明できる。 制度とあわせて高齢者を取り巻く環境について説明できる。			
2	老年期における生活課題			高齢者の生活における課題を、社会的・機能的視点から説明できる。			
3	老年期のライフイベントと適応			高齢者の社会参加や適応のあり方について、発達課題や理論と関連づけて説明できる。			
4	高齢者介護			現代の家族機能と高齢者介護の関連について説明できる。 高齢者介護における問題点について、自分の考えを説明できる。			
5	高齢期の一般的特徴			老化とは何か、老化の原因について説明できる。 高齢者の運動機能の特性を機能ごとに整理し、説明できる。 高齢者の感覚・知覚・認知機能の特性を機能ごとに整理し、説明できる。 高齢者の精神的・心理的機能の特性を整理し、説明できる。			
6	老人体験			擬似的に高齢者の身体機能を体験する。 高齢者の身体面・精神面について老化と関連付けて検証し、自分の考えを説明できる。			
7	老年症候群			老年症候群とは何かについて、説明できる。 老年症候群の項目を列挙し、各項目の具体的症状について説明できる。			
8	まとめ			高齢者の生活上の課題について、高齢者の特性と環境因子を関連づけてイメージすることができる。			
履修上の 留意点	基礎運動学および解剖学・生理学の内容に基づいて授業が行われるため、事前に基礎知識が必要となることを念頭において取り組むこと。						
授業形態	講義、グループワーク、体験、発表						
教科書	標準作業療法学 高齢期作業療法学 医学書院						
参考書	作業療法学全書7巻 老年期 村田和香編集 協同医書出版社						
評価方法	期末試験(筆記試験);65点、事前課題;20点、老人体験レポート;15点						
担当教員の 実務経験	病院で作業療法に従事						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	日常生活活動				担当教員	輿 登貴子、塩谷 絵梨	
学年および学科	2年OT	単位	1	総時間数	30時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	身体障害領域においてADLの維持・改善を目的としたOTを実施するために、必要な基礎的な知識を身につける。また、その知識をもとにOTに必要なADLの基本的な考え方を身につける。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	日常生活活動の概念・意義・範囲 (輿)			<ul style="list-style-type: none"> ・ADLの歴史を学びADLの概念や範囲について理解できる。 ・ADL・IADL・QOLの定義について説明できる。 ・ADL・IADLの項目をあげることができ、内容について説明できる。 			
2	日常生活活動と障害との関係 (輿)			<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活活動を遂行するための身体機能、影響因子を説明できる。 ・日常生活活動の障害について説明できる。 			
3	日常生活活動評価について (輿)			<ul style="list-style-type: none"> ・評価の目的を理解できる。 ・評価方法について説明できる。 ・FIM/Barthel indexの特徴について説明できる。 			
4	脳血管障害のADL (輿)			<ul style="list-style-type: none"> ・障害特性に応じた評価におけるポイント、ADL訓練における留意点について理解および説明できる。 ・ADL・IADLの各項目について、動作の工程を理解し説明できる。 			
5	関節リウマチのADL (塩谷)			<ul style="list-style-type: none"> ・障害特性に応じた評価におけるポイント、ADL訓練における留意点について理解および説明できる。 ・ADL・IADLの各項目について、動作の工程を理解し説明できる。 			
履修上の 留意点	各自必要となる参考書(教科書)や資料を持参して授業に臨むこと。						
授業形態	講義、演習、グループワーク(発表)						
教科書	新版日常生活活動(ADL)/医歯薬出版株式会社						
参考書	改訂第2版 作業療法学 ゴールドマスター・テキスト身体障害作業療法学/メジカルビュー社 臨床作業療法シリーズ 身体障害領域の作業療法/中央法規 作業療法学全書[改訂第3版]第4巻 作業治療学1身体障害/協同医書出版社 改訂第2版 リハ実践テクニック 関節リウマチ/メジカルビュー社						
評価方法	期末試験(筆記試験);輿60点、塩谷20点、レポート;輿20点						
担当教員の 実務経験	病院で身体障害領域の作業療法に従事						